

平成 25 年度第 4 回富山県障害者施策推進協議会・
富山県自立支援協議会の議事概要

日時：平成 26 年 3 月 28 日（金） 15：00～17:00

場所：県庁 4 階大会議室

【主な意見等】

○障害者に関する情報について

<委員>

・障害者も様々な形で地域活動に参加していくべきだと考えるが、行政からの障害者に関する情報をもらえるとありがたい。

<委員>

・盲ろう者の所在が把握できないので、個人情報の問題もあるかもしれないが、市町村担当部署から情報が頂けるようお願いしたい。

（事務局等）

・個人情報に関わることなので市町村の判断になるが、日頃から市町村の窓口とお付き合いをするなかで、必要な情報を得られればいいと思っている。

・個人情報保護法・条例があり、生命に危険が及ぶような状況以外は個人情報は保護しないとイケない。民生委員が地区をこまめに巡回し、支援が必要な方の情報は市にあがるので、そのような形で対応をしているつもりである。

○視覚障害者に配慮した環境整備等について

<委員>

①歩道の除雪について計画に書いて欲しい。難しいなら、視覚障害者センターのバス亭からセンターまでなど。

②県民会館、新病院、美術館の整備に際し、誘導鈴が人感方式になると聞いたが、視覚障害者にとっては困る。常時鳴らすか、シグナルエドといい、必要な時に発信機で誘導鈴を鳴らす仕組みもあるので検討いただきたい。

③協会の会員が 2020 東京パラリンピック(自転車競技)に向け本格的に訓練を開始したので、選手として出場できるよう応援をお願いしたい。

（事務局）

①P59 人に「人にやさしいまちづくり事業により、快適かつ安全な移動を確保する」と記載しているが、除雪のことも含めた書きぶりとできるか、担当課と検討したい。

②誘導鈴については、どのようなことができるか、担当課へ確認したい。

③是非「障害者スポーツ応援事業」を活用いただきたい。

○精神障害者の施設入所について

<委員>

・精神障害者の場合、特養等へ行くと介護度が低く、高額な自己負担を求められ、施設にも入れないことも多い。

○障害者の就労支援について

<委員>

・就労継続A型事業所とB型事業所の工賃に大きな差がある。

(事務局)

・高齢の障害者への支援は大きな課題と認識しており、計画案の中でも、6つの課題の1つに掲げている。国でも支援を検討するとしており、動きを見守っていきたい。一方で、親亡き後の在宅の障害者の問題や、施設へ入所している障害者の高齢化の問題もある。今回の計画で方向性を出したわけではないが、課題として掲げたうえで、今後国の動きも見守りながら検討していきたい。

<委員>

・ジョブコーチによる支援は「障害者本人、家族、事業所」のかけ橋となるような支援を目標としており、1~7ヶ月集中的な支援を行い、その後も1年間フォローしている。さらに、その後も、必要な場合は職業センターへ申し出ることによって支援を受けることができる。

○ホームヘルプサービスについて

<委員>

・ホームヘルプの利用が低調であることについては、ホームヘルパーの養成だけで解決する問題でなく、事業者が介護保険だけでなく障害に対応しないと利用は広がらない。

(事務局)

・ご指摘の課題は認識しており、様々な検討をしている。

・計画案において、「障害者支援施設と連携し、その専門的機能を活用し、障害者の地域生活を支援する」と記載している。ホームヘルプに限定して書いてあるわけではないが、ここを広く読んで、今後、例えば障害者支援のノウハウをもつ入所や通所を運営する法人への働きかけるといった方法も可能性として考えていきたい。

○平成26年度予算について

<委員>

・平成26年度予算「重症心身障害児(者)医療的ケア支援事業」はどのように実施していくのか。

(事務局)

・現在、富山病院に委託して、重症心身障害児(者)の方に対応できるよう、生活介護事業所を対象とした研修を行っている。

・新しい事業はこれをフォローアップするもので、医療施設等に委託して、専門家が地域の生活介護事業所を巡回し、重症心身障害児(者)への対応方法を指導するもの。

○障害福祉サービスと介護保険の関係について

<委員>

・65 歳になると介護保険優先となるが、実際にはそれが活かされていない。入所施設において、40 代となり衰えが始まっても、2号保険者にあたらないため介護保険への切り替えできず、施設が抱え込むことになる。

・まずは介護保険の判定を受け付けてもらえるところに引き上げるというハードルがあるが、たとえ重い介護度判定となっても、入所施設に空きがなく、支援に苦慮することになる。医療や介護の機能・スタッフ確保に大変な思いをしているのが実情。